

研究テーマ: 地域情報ハイウェイ相互接続プロジェクト(1/2)

(プロジェクト番号 JGN2-A16041)

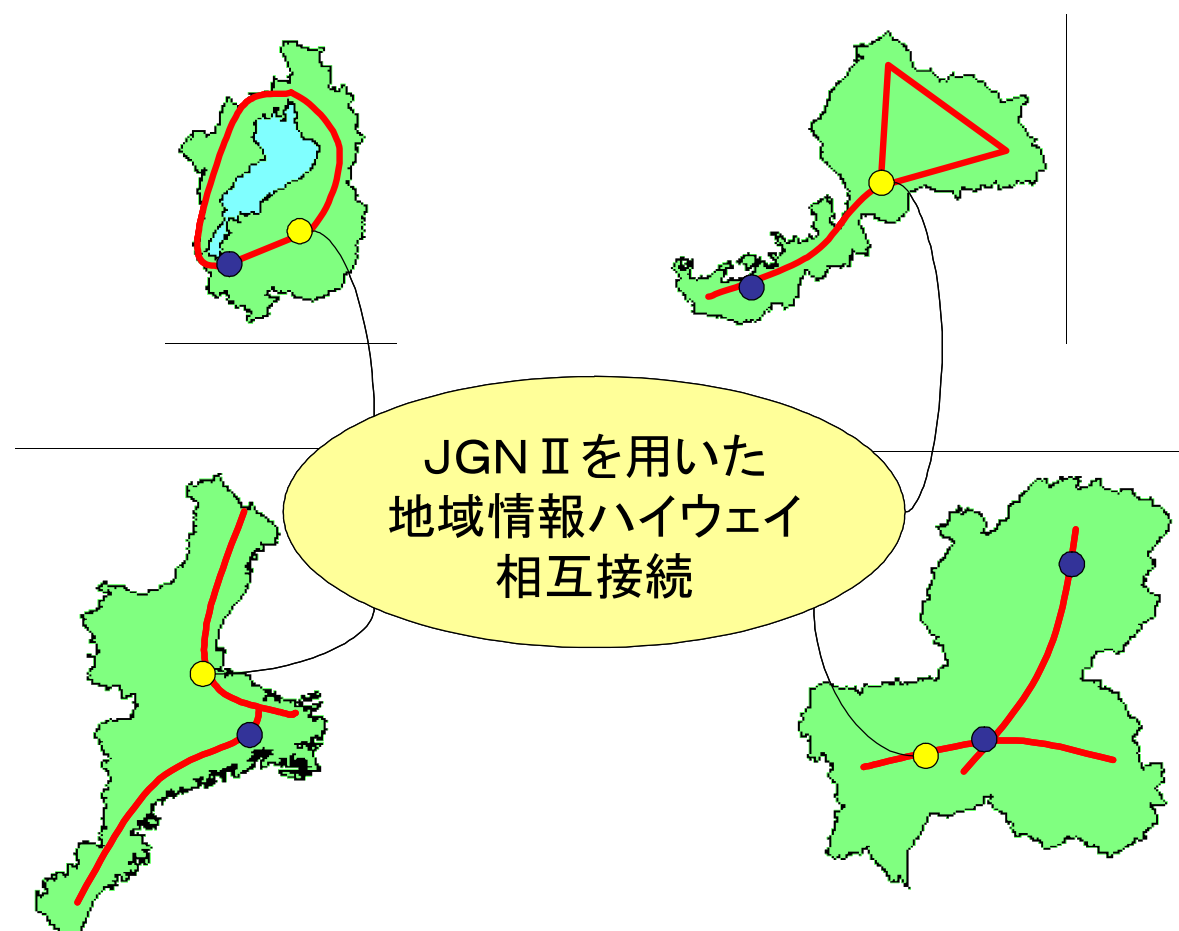
研究機関: (財)ソフトピアジャパン、福井県、滋賀県、三重県、岐阜県

研究の概要と目的:

現在、地域行政事務の広域化対応の必要性や、ネットワークトラフィックが東京へ一極集中している状況の危険性が指摘されています。この問題を解決するためには、地域のネットワークを相互接続していくことが必要不可欠ではあるものの、莫大なネットワーク回線の敷設費やアクセス回線維持費用が必要であったり、セキュリティポリシーの違いなどの課題があるため、実現が難しい状況です。

そこで、今回4県の地域情報ハイウェイ等をJGN IIを介して試験的に接続し、実証実験を行うことで、将来の地域ネットワーク相互接続実現への足がかりとします。

本研究では、将来の相互接続後の定常的なアプリケーションとして有望視されている映像伝送についての実験をあわせて実施し、地域情報ハイウェイの相互接続の有効性を検証しました。



研究テーマ: 地域情報ハイウェイ相互接続プロジェクト(2/2)

(プロジェクト番号 JGN2-A16041)

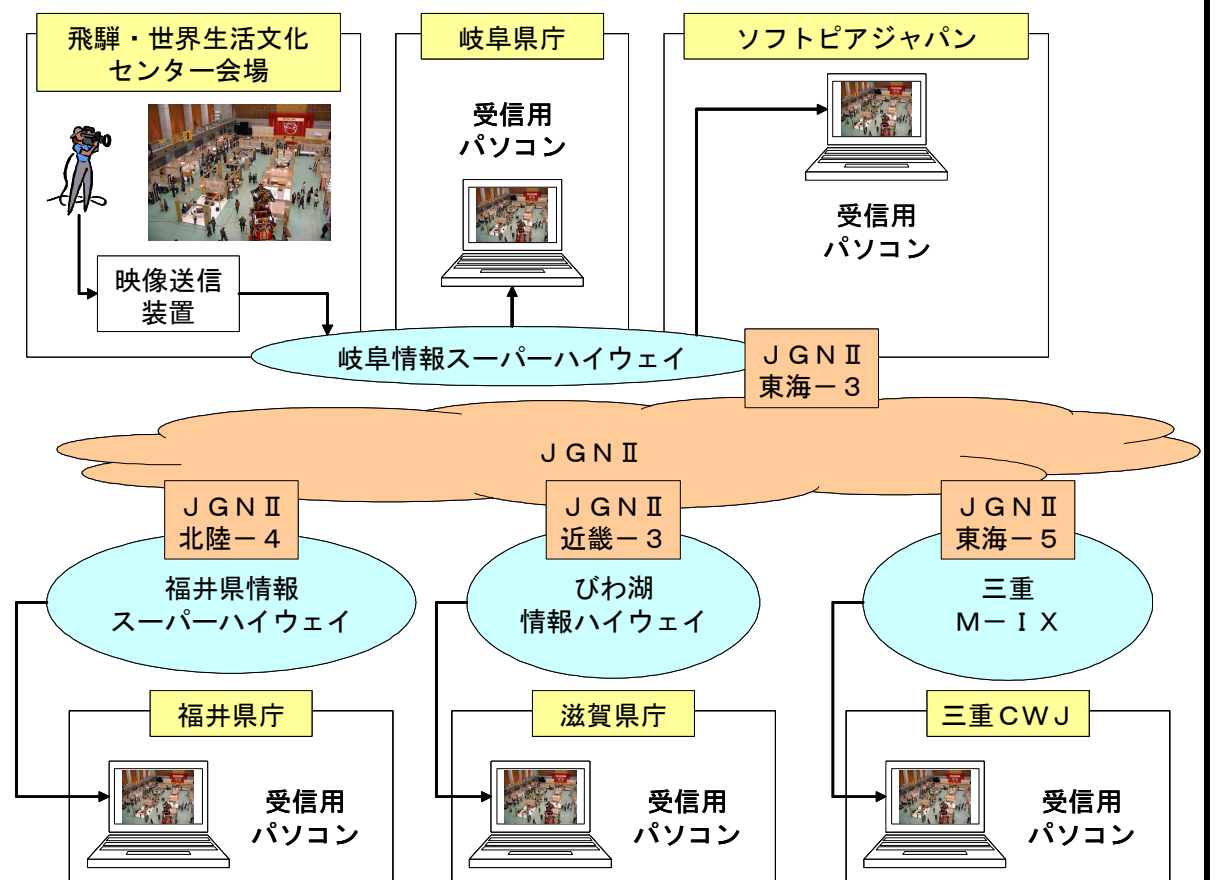
研究機関: (財)ソフトピアジャパン、福井県、滋賀県、三重県、岐阜県

実験機器構成:

相互接続の実現後に行われるであろうイベント映像の流通実験を実施しました。

これにあたり、送信元に映像送信装置を設置し、受信拠点では受信ソフトをインストールしたパソコンで映像を受信しました。

接続にあたり特に特殊なネットワーク機器等は用いていません。



研究開発成果:

各地域情報ハイウェイはEthernetとの親和性が非常に高く、JGN IIとの物理的な接続が非常にスムーズに行えました。これまで、各地域情報ハイウェイの設計、運用ポリシーが異なるため、接続すらできないと言われてきましたが、本研究において、全拠点が同一の目的で利用する限りにおいてはこの問題は解決できました。

プロジェクトのアピールポイント:

地域情報ハイウェイを相互に接続し、インターネットの迂回路として使うことができれば、大都市に頼らない通信が可能となり防災への利用が期待できます。

プロジェクトの自己評価:

本プロジェクトでは実験目的に限定した接続であった。今後は行政情報や防災情報の相互流通に適した回線の選定など具体的な検討が必要である。